

CASBEE-建築(新築)2016年版
 (仮称)長岡京市開田4丁目PJ

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						2.7
Q1 室内環境			0.40			3.2
1 音環境		3.0	0.15	3.1	1.00	3.0
1.1 室内騒音レベル	-	3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音		3.0	0.50	3.2	0.50	
1 開口部遮音性能	-	3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能	-	-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽衝撃源)	遮音性能LL45	-	-	4.0	0.20	
4 界床遮音性能(重衝撃源)	-	-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音	-	-	-	-	-	
2 温熱環境		2.6	0.35	2.7	1.00	2.7
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.3	0.50	
1 室温	-	3.0	0.63	3.0	0.63	
2 外皮性能	住戸:等級4	3.0	0.38	4.0	0.38	
3 ゾーン別制御性	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御	-	1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式	-	3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境		2.8	0.25	3.6	1.00	3.4
3.1 昼光利用		2.4	0.30	4.0	0.30	
1 昼光率	住戸:昼光率2.5%以上	2.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口	-	-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備	-	3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	4.0	0.30	
1 昼光制御	各住戸バルコニーカーテンレールの組合せ	3.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度	-	3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御	-	3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気環境		3.6	0.25	3.8	1.00	3.8
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質	70%以上にF☆☆☆☆を採用	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気		3.0	0.40	3.6	0.38	
1 換気量	-	3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能	居室面積の1/6以上の開閉可能な窓を確保	-	-	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮	-	3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御	-	-	-	-	-	
Q2 サービス性能			0.30			2.8
1 機能性		2.9	0.40	2.6	1.00	2.6
1.1 機能性・使いやすさ		4.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性	-	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応	-	-	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画	バリアフリー新法の最低限のレベルを満たしている	4.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観	-	-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース	-	-	-	-	-	
3 内装計画	-	1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	内壁・床面は防汚性の高い建材を採用	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	-	3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		2.7	0.30	-	-	2.7
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-	3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	-	3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	-	2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	上位3種の2種類以上にB以上を使用、Eは不使用	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	-	2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		1.8	0.20	-	-	
1 空調・換気設備	-	3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	-	1.0	0.20	-	-	
3 電気設備	-	1.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	-	3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	-	1.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.0	0.30	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり					3.2	0.50	
1	階高のゆとり	階高2.9m以上	-	-	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	-	-	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	1.00			
1	空調配管の更新性	-	3.0	0.20			
2	給排水管の更新性	-	3.0	0.20			
3	電気配線の更新性	-	3.0	0.10			
4	通信配線の更新性	-	3.0	0.10			
5	設備機器の更新性	-	3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)				0.30			2.1
1	生物環境の保全と創出	-	2.0	0.30			2.0
2	まちなみ・景観への配慮	-	2.0	0.40			2.0
3	地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30			2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	-	2.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性							3.1
LR1 エネルギー				0.40			3.4
1	建物外皮の熱負荷抑制	等級4相当	4.0	0.20			4.0
2	自然エネルギー利用	-	3.0	0.10			3.0
3	設備システムの高効率化	BEI=0.96	3.4	0.50			3.4
4	効率的運用		3.0	0.20			3.0
集合住宅以外の評価							
4.1	モニタリング	-	-	-			
4.2	運用管理体制	-	-	-			
集合住宅の評価			3.0	1.00			
4.1	モニタリング	-	3.0	0.50			
4.2	運用管理体制	-	3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル				0.30			3.0
1 水資源保護			3.0	0.20			3.0
1.1 節水			3.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70			
2	雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.60			3.1
2.1	材料使用量の削減	-	2.0	0.10			
2.2	既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20			
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	断熱材、ビニル床シート	4.0	0.20			
2.5	持続可能な森林から産出された木材	-	3.0	0.10			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	-	3.0	0.20			
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20			3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70			
1	消火剤	-	2.0	0.33			
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWP=50未満の断熱材を使用	4.0	0.33			
3	冷媒	-	3.0	0.33			
LR3 敷地外環境				0.30			3.0
1 地球温暖化への配慮			3.0	0.33			3.0
2 地域環境への配慮			2.8	0.33			2.8
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25			
1	雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25			
3	交通負荷抑制	-	3.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制	-	1.0	0.25			
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33			3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40			
1	騒音	-	3.0	0.33			
2	振動	-	3.0	0.33			
3	悪臭	-	3.0	0.33			
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40			
1	風害の抑制	-	3.0	0.70			
2	砂塵の抑制	-	-	-			
3	日照障害の抑制	-	3.0	0.30			
3.3 光害の抑制			4.4	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告照明の設置なし	5.0	0.70			
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30			

CASBEE-建築(新築)2016年版

(仮称)長岡京市開田4丁目PJ

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	6.0		○	○	○	-	○	-	-	-	-	○	○	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0		-	○	○	-	○	-	-	○	-	○	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	5.0		-	-	2.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	2.0		1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	10.0		2.0	2.0	-	2.0	-	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	8.0		1.0	1.0	-	-	2.0	-	-	1.0	3.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) -

U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁	床
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	ηAC	ηAH
昼光率	2.6%			
自然換気有効開口面積率	7.9%			

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自白さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	.0㎡/人	病床	.0㎡/床	シングル	.0㎡ ツイン	.0㎡
コンセント容量	0.0 VA/㎡					
天井高	2.45 m					
リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	0.0%			
想定耐用年数	0 年					
想定必要間隔	0 年					
想定必要間隔	0 年					
想定必要間隔	0 年					
階高	2.91 m					
壁長さ比率	68.7%					
床荷重	- N/㎡					

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

3 設備システムの高効率化

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

外構緑化指数	25%	建物緑化指数	0%							
空地率	20%	水平投影面積率	8%	地表面対策面積率	22%	舗装面積率	0%			
BPI/BPI _m	-	断熱等性能等級	等級4 相当							
自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	0.0%	採光を満たす住戸数	0.0%					
		通風を満たす教室数	0.0%	通風を満たす住戸数	0.0%					
BPI/BPI _m	非住宅	-	住宅	0.96	太陽光	.0kW	太陽熱等	.0kW	蓄電池	.0kW
雨水利用率	0.0%									
特定調達品目	断熱材	エコマーク商品	ビニル床シート	自治体指定の特定品目等	-					
使用比率	0.0%									
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)								
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	3							
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)								
見付面積比	37%	隣棟間隔指標Rw	0.15							
地表面対策面積率	35.0%	屋根面対策面積率	0.0%	外壁面対策面積率	#DIV/0!					
見付面積Sb	732㎡	卓越風向と直交する最大敷地幅Ws	49.99 m	基準高さHb	38.99 m					
緑地	159㎡	水面	㎡	保水性対策面	㎡	高反射対策面	㎡	再帰性反射対策面	㎡	